

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04735

研究課題名(和文)身体性に基づく音楽創作実践プログラムの開発

研究課題名(英文)The body matters: embodying the musical creativity and communication

研究代表者

今田 匡彦 (Imada, Tadahiko)

弘前大学・教育学部・教授

研究者番号：30333701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、サウンドスケープ、サウンド・エデュケーションを海外と国内でのアクション・リサーチにより再検討し、身体性と創造性による音楽教育プログラムの開発、西洋と非西洋とを超越する音楽そのものの解明を目的として着手された。については弘前大学教育学部附属学校園(小学校、中学校、特別支援学校)の研究協力の下、サウンド・エデュケーションを基盤とした音楽教育実践のアクション・リサーチを継続的に行い、聴覚を中心とした身体性と創造力による音楽教育プログラムを開発した。についてはでの成果を基盤にUniversity of London等海外の研究者とともに音楽の普遍項についての検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の音楽教育は既成の音楽を基盤に展開されてきたため、楽譜の再現や鑑賞が重視されてきた。その結果音楽に必要な身体性と創造性が欠如する傾向があった。このような背景での本研究の学術的、社会的意義は以下に示す1)から3)が明らかとなった点である。1)サウンドスケープの導入による、音符に示された「音楽」の枠組みの環境音全体の中での相対化。2)西洋音楽美学、西洋音楽中心主義を再検討することによる国際社会に対応可能な日本の音楽教育の構築。3)子どもたちの身体を基盤とした新たな音楽創生の指標(音楽教育のユニヴァーサル・デザイン化への貢献)。

研究成果の概要(英文)：This study was initiated to 1) reexamine the concept of soundscape and sound education through action research in Japan and overseas; 2) develop music education program based on physicality and creativity; and 3) elucidate music itself that transcends both the West and the non-West. With the cooperation of the Hirosaki University Elementary, Junior High and Special Needs Schools attached to the Faculty of Education, action research on music education practices based on sound education was continuously conducted for 1) and 2), and a music education program based on physicality and creativity with a focus on the auditory sense was developed. Regarding 3), based on the results of 1) and 2), Imada examined the universal terms of music with international researchers such as Goldsmiths, University of London, and others.

研究分野：音楽教育学

キーワード：サウンドスケープ サウンド・エデュケーション ユニヴァーサル・デザイン 創造性 身体性 小・中・特別支援の協働

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本の音楽教育は西洋クラシック音楽を中心に展開されてきた。その結果、1)既に記譜された既成の楽曲を歌唱、器楽により再現する、2)既に録音、録画された既成作品のソフトを再現し鑑賞する、活動が中心となり、身体を基盤とする創作分野は取り残されてきた。また、近年日本伝統音楽、世界の民族音楽など、非西洋音楽が音楽科教育に導入されて来たが現場の音楽教員は、教員養成課程でクラシック音楽を中心に学んでおり、非西洋の音楽文化を教えることに困難を感じている。そのため学校現場は身体を基盤とする創作、及び西洋と非西洋の音楽文化を架橋する新しい方法論を必要とした。

### 2. 研究の目的

日本の音楽教育は既に確立した既成の音楽(西洋クラシック音楽及び日本伝統音楽等)を基盤に展開されてきたため、楽譜の正しい再現や鑑賞が重視されてきた。その結果これまでの音楽教育は言葉による理解と初歩的な演奏技術習得に力点が置かれ、音楽が西洋音楽、日本の伝統音楽と世界の民族音楽といったジャンルに縛られる傾向がみられた。そのため音楽に必要な身体性と創造性が欠如する傾向があったといえる。以上の問題を踏まえ、本研究ではカナダの作曲家R・マリー・シェーファーによって提唱されたサウンドスケープ論、及びサウンド・エデュケーションを海外と国内でのアクション・リサーチにより再検討し、身体性と創造性を基盤とした音楽教育プログラムの開発し、西洋と非西洋とを超越する音楽そのものの解明を目的とした。

### 3. 研究の方法

小・中学校の音楽科学習指導要領に示された各項目とサウンドスケープ思想、サウンド・エデュケーションとの共通項を調査・分析した。その調査結果を海外の研究者と共有・検討することにより新たな実践の方法を探求すると同時に、弘前大学教育学部附属学校園(小学校、中学校、特別支援学校)の研究協力の下、サウンド・エデュケーションを基盤とした音楽教育実践のアクション・リサーチを継続的に行った。

### 4. 研究成果

2017年度は研究成果を”Shifting from Big Music to Small Music through Creative Music Making”のタイトルの下、マレーシアで開催されたAPSMER2017にて口頭発表するとともに研究論文としてConference Proceedingsに掲載した(APSMER2017, pp.204-209、査読有)。また同学会にて台湾、韓国、香港、マレーシアの研究者とともにパネル”Transcending Borders: Music Education in Asia: Tracking Past, Present, and Future”を開催し意見交換を行った。サウンド・エデュケーションによるアクション・リサーチでは、弘前大学教育学部附属小学校、中学校、特別支援学校にて共同研究を行い公開授業として一般に公開した。また「アート・プロジェクト:みる・きく・つくる」を弘前にて開催し、『音楽教育学第47巻第2号』に研究報告を掲載した。同時に、西洋と非西洋との比較研究として、英国ロンドンのNordoff-Robbins Centreを訪問し弘前大学教育学部附属特別支援学校での研究成果と音楽療法との接点を探るとともに、アレクサンダー・テクニークとの共通項についての検証を行った。2018年はこれまでの研究実績成果を国内外の学会(International Society for Music Education, Commission on Policy: Culture, Education and Media, Munich及び日本音楽教育学会第49回岡山大会共同企画「音楽教育のUniversal Designを構築する:サウンド・エデュケーションによる音楽の普遍項への立

ち会い」)にて発表し評価を得た。エリザベト音楽大学特別講座「サウンドスケープとユニヴァーサル・デザイン：音楽教育から発信する音楽の普遍項について」では音楽教育プログラムを実践、土井道子記念京都哲学基金シンポジウム「日本哲学と音楽」ではその理論的背景を「子どもたちのための哲学音楽論：サウンドスケープとユニヴァーサル・デザイン」のタイトルの下発表し評価を得た。特に附属特別支援学校と附属中学校の合同授業のアクション・リサーチから得たユニヴァーサル・デザイン及びインクルーシヴ教育の知見は本研究の核心に迫る重要な成果となった。西洋と非西洋を架橋するための理論・実践両面の研究については英国にて講演"Using the Concept of Soundscape to Develop the Universal Design in Music" (Goldsmiths, University London) を行い、評価を得た。以上の成果は Creativity in Music Education (Springer) 第3章 "Soundscape, Sound Education, and the Grain of the Music: Experiencing the Luminousness of Music Being What It Is" pp.35-45 でも示すことが出来た。2019年度はこれまでの研究成果を国内外の学会 (The 12th Asia Pacific Symposium for Music Education Research (APSMER) 2019, Macao Polytechnic Institute、日本音楽教育学会第50回東京大会、東京藝術大学) にて発表し評価を得た。APSMER2019では国際共同研究の継続、日本音楽教育学会大会では評価と幼稚園、保育所への研究の拡大に着手した。弘前大学教育学部附属学校園に於けるアクション・リサーチも継続的に行い、学校現場への更なる汎用可能性について実証しつつある。以上のアクション・リサーチから得たユニヴァーサル・デザイン及びインクルーシヴ教育の知見、西洋と非西洋を架橋するための理論・実践両面の研究は英国ロンドンの The University of Greenwich での講演 "Sound Education and Universal Design towards the Music of Philosophy for Children" にて国際的にも評価された。2020年度の研究成果は Symposium: Technology in School Music Education, The 20th International Seminar of the ISME Commission on Policy: Culture, Media and Education (Virtual Conference, 29-31 July 2020) のパネリストとしての発表等に示されている。この発表を基盤とした研究論文 "How Music Teachers Teach Children to be Alone through Digital Technology in Music?" (査読有) は同学会 (International Society for Music Education) の Proceedings (2020, ISME, pp.7-14) に掲載されている。シンポジウムでは、台湾、日本、韓国、香港の研究者によるアジアの音楽教育におけるデジタル・テクノロジーの現在と未来についての検討がなされたが、本発表では身体性を基盤とした創作実践でのデジタル・テクノロジーの有効性及び問題点を指摘するとともに、デジタル・テクノロジーの反作用的役割としてのサウンド・エデュケーションの汎用可能性について発表した。また、日本音楽即興学会第12回大会でのシンポジウム、日本サウンドスケープ協会 2020年度秋季研究発表会、日本音楽教育学会 2020年度東北支部例会でも成果発表を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Tadahiko Imada	4. 巻 -
2. 論文標題 How Music Teachers Teach Children to be Alone through Digital Technology in Music?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 20th International Seminar of the Commission on Music Policy: Culture, Education, and Media, Virtual Conference (electronic resource)	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 今田匡彦	4. 巻 -
2. 論文標題 子どもたちのための哲学音楽論：サウンドスケープとユニヴァーサル・デザイン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本哲学史研究	6. 最初と最後の頁 66-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 今田匡彦、塚原健太、小枝洋平、千葉修平	4. 巻 49-2
2. 論文標題 Out of Logos: 哲学身体論によるUniversal Designの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽教育学	6. 最初と最後の頁 67-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20614/jjomer.49.2_67	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Pstricia Shehan Campbell、岩井智宏、高須裕美、佐藤昌弘、今田匡彦、田中多佳子、坪能由紀子	4. 巻 49-2
2. 論文標題 学校と社会を結ぶ音楽教育III：さまざまな文化にもとづいた音楽活動を教室に！	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽教育学	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20614/jjomer.49.2_43	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 岩井智宏、今田匡彦、石上則子	4. 巻 3号
2. 論文標題 クラスターを使った音楽づくり	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽の授業づくりジャーナル	6. 最初と最後の頁 10-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木千明、今田匡彦、千葉修平	4. 巻 3号
2. 論文標題 図形楽譜から音楽をつくらう	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽の授業づくりジャーナル	6. 最初と最後の頁 36-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tadahiko Imada	4. 巻 -
2. 論文標題 Developing the Universal Design in Music Education for a New Teacher Policy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 19th International Seminar of the ISME Commission on Music Policy: Culture, Education, and Media	6. 最初と最後の頁 244-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tadahiko Imada	4. 巻 -
2. 論文標題 Proposing an Active Learning Approach in Japanese Music Education Policy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 19th International Seminar of the ISME Commission on Music Policy: Culture, Education, and Media	6. 最初と最後の頁 113-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tadahiko Imada	4. 巻 -
2. 論文標題 Soundscape, Sound Education, and the Grain of the Music: Experiencing the Luminousness of Music Being What It Is	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Creativity in Music Education	6. 最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-2749-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 今田匡彦, 小枝洋平, 金崎惣一, 外崎純恵	4. 巻 48
2. 論文標題 音楽教育のUniversal Designを構築する: サウンド・エデュケーションによる音楽の普遍項への立ち会い	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 音楽教育学	6. 最初と最後の頁 71 - 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20614/jjomer.48.2_71	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坪能由紀子, 石上則子, 今田匡彦, 中村昭彦, 小野沢美明子, 駒久美子, 味府美香	4. 巻 48
2. 論文標題 学校と社会を結ぶ音楽教育II: 協働的な授業のフレームワークを構築する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 音楽教育学	6. 最初と最後の頁 57 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20614/jjomer.48.2_57	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tadahiko Imada, Takeshi Mikami, Kento Takahashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Shifting from Big Music to Small Music through Creative Music Making	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 APSMER2017 E-Proceedings	6. 最初と最後の頁 204-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hung Pai CHEN, Tadahiko IMADA, Mohamd SHAN, Ang Ah SEOK, Pan-hang TANG	4. 巻 -
2. 論文標題 Transcending Borders: Music Educaiton in Asia: Tracking Past, Present, and Future	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 APSMER2017 E-Proceedins	6. 最初と最後の頁 441-449
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高橋憲人, 今田匡彦, 前田一明	4. 巻 47
2. 論文標題 小さな音楽 の実践的探究: 2つのワークショップを通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 音楽教育学第47巻第2号	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20614/jjomer.47.2_49	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今田匡彦, 高橋憲人, 前田一明, 金崎惣一	4. 巻 47
2. 論文標題 Indirect Approaches: アート・プロジェクトとしての小さな芸術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 音楽教育学第47巻第2号	6. 最初と最後の頁 98 - 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20614/jjomer.47.2_49	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今田匡彦	4. 巻 119
2. 論文標題 音楽, ことば, 身体をめぐって: 高橋洋子『通りゃんせ』を読む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部学部紀要	6. 最初と最後の頁 67-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 Tadahiko Imada
2. 発表標題 How Music Teachers Teach Children to be Alone through Digital Technology in Music?
3. 学会等名 The 20th International Seminar of the Commission on Music Policy: Culture, Education, and Media, Virtual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今田匡彦、長谷川諒、金目哲郎、稲田祥宏
2. 発表標題 逃走する即興：医学，政治・経済学，そして音楽
3. 学会等名 日本音楽即興学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今田匡彦
2. 発表標題 はじめてのオンガク：サウンド・エディションとユニヴァーサル・デザイン
3. 学会等名 日本サウンドスケープ協会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今田匡彦
2. 発表標題 The Plurality of Musics: 音楽の公共性と教育について
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 Tadahiko Imada
2. 発表標題 Soundscape, Universal Design and Music Education
3. 学会等名 APSMER2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hung Pai Chen, Tadahiko Imada, Joo Hyun Kang, Shahanum Mohamad Shah, Pan-hang Tang
2. 発表標題 Technology in Music curriculum and its Practice
3. 学会等名 APSMER2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今田匡彦、塚原健太、小枝洋平、千葉修平
2. 発表標題 Out of Logos: 哲学身体論によるUniversal Designの構築
3. 学会等名 日本音楽教育学会第50回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Patricia Shehan Campbell,、岩井智宏、高須裕美、佐藤昌弘、今田匡彦、田中多佳子、坪能由紀子
2. 発表標題 学校と社会を結ぶ音楽教育III:さまざまな文化にもとづいた音楽活動を教室に!
3. 学会等名 日本音楽教育学会第50回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadahiko Imada
2. 発表標題 Sound Education and Universal Design towards the Music of Philosophy for Children
3. 学会等名 The University of Greenwich (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tadahiko Imada
2. 発表標題 Using the Concept of Soundscape to Develop the Universal Design in Music
3. 学会等名 Lecture, Goldsmiths, University of London (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今田匡彦
2. 発表標題 子どもたちのための哲学音楽論：サウンドスケープとユニヴァーサル・デザイン
3. 学会等名 土井道子記念京都哲学基金 シンポジウム「日本哲学と音楽」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今田匡彦
2. 発表標題 サウンドスケープとユニヴァーサルデザイン：音楽教育から発信する音楽の普遍項について
3. 学会等名 エリザベト音楽大学特別講座(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tadahiko Imada, Joo Hyun Kang, Pan Hang Tang
2. 発表標題 Music teacher education policy in Asina regions
3. 学会等名 International Society for Music Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadahiko Imada, Takeshi Mikami, Kento Takahashi
2. 発表標題 Shifting from Blg Music to Small Music through Creative Music Making
3. 学会等名 Asia Pacific Symposium for Music Education Research 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hung Pai CHEN, Tadahiko IMADA, Mohamad SHAN, Sang Ah SEOK, Pan-hang Tang
2. 発表標題 Trancending Borders: Music Education in Asia: Tracking Past, Present, and Future
3. 学会等名 Asia Pacific Symposium for Music Education Research 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今田匡彦, 高橋憲人, 前田一明, 金崎惣一
2. 発表標題 Indirect Approaches:アート・プロジェクトとしての小さな芸術
3. 学会等名 日本音楽教育学会第48回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tadahiko Imada
2. 発表標題 Proposing an Active Learning Approach in Japanese Music Education Policy
3. 学会等名 ISME Commission on Policy: Culture, Education and Media (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tadahiko Imada
2. 発表標題 Developing the universal design in music education for a new teacher policy
3. 学会等名 ISME Commission on Policy: Culture, Education and Media (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	神山 ルミ子  (Kamiyama Rumiko)	弘前大学教育学部附属小学校・教諭	
研究協力者	木村 麻美  (Kimura Asami)	弘前大学教育学部附属小学校・教諭	
研究協力者	齋藤 素子  (Saito Motoko)	弘前大学教育学部附属中学校・教諭	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 千明  (Chiaki Suzuki)	弘前大学教育学部附属中学校・教諭	
研究協力者	小枝 洋平  (Yohei Koeda)	弘前大学教育学部附属特別支援学校・教諭	
研究協力者	高橋 憲人  (Takahashi Kento)  (30848312)	弘前大学・大学院地域社会研究科・客員研究員  (11101)	
研究協力者	千葉 修平  (Shuhei Chiba)  (00813429)	青森明の星短期大学・講師  (41101)	
研究協力者	前田 一明  (Maeda Kazuaki)  (00848301)	青森中央短期大学・助教	
研究協力者	金崎 惣一  (Kanazaki Soichi)  (80968339)	弘前大学・大学院地域社会研究科・客員研究員  (11101)	
研究協力者	外崎 純恵  (Tonosaki Sumie)	弘前大学・大学院地域社会研究科・院生  (11101)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	The University of Washington			
韓国	Seoul National University of Education			
その他の国・地域	National University of Tainan			
その他の国・地域	National Pingtung Universtiy			
英国	Goldsmiths, University of London	Nordoff Robbins Centre	The University of Greenwich	
Malaysia	Universiti Teknologi MARA			
その他の国・地域	HK Music Education and Research Centre			